



食と緑の地域活動支援による魅力ある社会の創成

林 久喜(農林技術センター・生命環境系・教授)・米川和範(農林技術センター・技術専門官)
横山和人(農林技術センター・技術専門職員)・齋藤 明(農林技術センター・技術職員)

大学の持つ幅広く深い知力や高い技術力に期待する社会の声は益々高まっています。食と緑に関する知と技が結集した組織である筑波大学農林技術センターに勤務する人的資源を地域活動支援に活かすことで、魅力ある社会の創成につなげていくのが本プロジェクトの目的です。

本プロジェクトは小・中学校における総合学習や営農大学校における専門教育の指導、科学技術週間を通じた青少年育成、国立科学博物館筑波実験植物園活動支援、公開講座や地方自治体等からの要請に基づく地域振興活動並びに研究会の開催などを通じて、食育活動、環境教育活動、教育の場の提供、技術指導、教育プログラム開発など、食と緑に関連した様々な活動を支援・展開しました。



国際相互理解
タイ王国カセサート大学



第14回そば研究会



農林技術センター校外学習



ディケアプログラム
サツマイモ収穫



東日本大震災復興支援
被覆作物による除染



ディケアプログラム
ムギの播種



青森県営農大学校
SEICAの活用



科学技術週間
お米教室



ディケアプログラム
薬物野菜の水耕栽培



科学技術週間



へき地校研究授業



大子西中学校
総合学習支援



栗原小学校
雑穀を用いた食育



大子西中学校
そばを用いた総合学習



科学技術週間
そば教室



筑波実験植物園
さくらそう展壇壇飾り



教員免許状更新講習



地域社会にもたらされた成果、効果等

- ①食育および環境教育の両面から地域社会における生涯学習が進展した。
- ②東日本大震災に打ち勝つ復興支援として、広域放射能汚染地におけるモニタリングを継続実施し農産物の安全性を確認した。
- ③教職員が持つ、食育および環境教育に関するノウハウが教師など地域社会における指導者に伝授された。
- ④連携協定の締結先である市町村との交流が盛んになり、相互の信頼関係が増し、地域社会として機関連携が円滑に進んだ。
- ⑤教育プログラムが開発された。
- ⑥技術職員の意識の改革につながり、新たな展開がもたらされた。
- ⑦地域社会における筑波大学の社会貢献実績が評価され、健全な地域社会の創成につながった。
- ⑧国際相互理解を促進した。
- ⑨地方自治体、教育機関、NPOなどとの連携を推進した。
- ⑩ディケアプログラムやデュアルプログラムにより社会との連携を支援した

連携した地方自治体等 ・つくば市、つくば市教育委員会、栗原小学校、松代小学校、さくら保育園、つくば特別支援学校

・久慈郡大子町、大子町教育委員会、大子西中学校 ・坂東市、常陸大宮市 ・青森県、青森県営農大学校

・さくらそう里親の会、NPO法人つくばアーバンガーデニング ・国立科学博物館筑波植物園

学内連携 ・筑波大学臨床医学系、朝田教授、石川講師、筑波大学附属病院